

「農業とICT/IoT利活用セミナー in 高知」を開催

《稼ぐ農業で未来を切り拓く》

四国総合通信局（局長：村松 茂）は、高知県（知事：尾崎 正直）、高知県IoT推進ラボ研究会（会長：加藤 稔）及び四国情報通信懇談会（会長：松田 清 四国旅客鉄道株式会社相談役）との共催により、平成30年9月26日（水）、高知県高知市で「農業とICT/IoT利活用セミナー in 高知」を開催し、地方公共団体、農業関係機関、ICT関連企業などから92名が参加しました。



【事例紹介①】稼ぐ農業の実践 / 株式会社いろどり 代表取締役社長 総務省地域情報化アドバイザー 横石 知二 氏

徳島県上勝町の葉っぱビジネス「彩（いろどり）」では、農家と顧客の情報受発信を行うことで、いつ、何を、どれだけ出荷すれば高く売れるかを正確に把握していること、また、時代の変化と共に農業も変わる必要があり、「情報と仕組み」に重きをおいて独自の価値を付加した商品売ることの大切さを紹介。



【事例紹介②】次世代施設園芸+αで生産性と付加価値向上 / 株式会社シテナット 代表取締役社長 渡邊 基文 氏

ビニールハウスにセンサーやカメラを導入し、栽培データの蓄積と見回り効率化を行う取組、還元野菜プロジェクトのシステム構築などのIoTを活用した農業の効率化事例と併せ、営農者支援ネットワークの構築やICT活用を目的とした営農ポータルなどを紹介。



【事例紹介③】水田センサでブランド米の品質向上 / 一般財団法人本山町農業公社 専務理事 和田 耕一 氏

高知県本山町のブランド米「土佐天空の郷」（国内有数のコンテストで2度の日本一を受賞）について、栽培技術の伝承や品質維持、収量安定化のため、水田センサ（IoT）を活用してデータを収集し、培われてきた「農家の勘」をマニュアル化する取組を紹介。（平成29年度地域IoT実装推進事業を活用。）



パネルディスカッションの様子

【パネルディスカッション】高知で“稼ぐ農業”を語る

高知工科大学 教授の福本 昌弘 氏をコーディネータ、事例紹介の登壇者をパネリストとして進行。

農業の抱える課題や、ICTを活用して農業で稼ぐ方法について討論したあと、会場からの「今の農業者が持たなければいけない思い、考え、目標は何だと思われますか？」といった質問に対し、パネリストから「作物を安く売るのはいけない。価値のあるものは価値に見合った価格で売るために、SNSなども活用しながら情報の流れる仕組みを作らなければならない。」「昔ながらの家族経営ではなく、農家が経営者として戦略を立て、農業経営を行う必要がある。」「夢を持ち、競争心をモチベーションにして働くことが大事。」とコメントするなど活発な議論を展開。

参加者アンケートでは、「今後も同様のセミナーを開催してほしい」、「講師の情熱が伝わった」、「質問サイトを使った進め方は、質問が気兼ねなくてよかった」などの声が寄せられました。

今後とも、四国総合通信局では、地方公共団体、企業、一般の方々に、ICT/IoT利活用に関する理解を深めその取組を進めていただくため、セミナーを開催するなど啓発に努めてまいります。

【お問い合わせ先】情報通信部 情報通信振興課 089-936-5061

（主催） 四国総合通信局

（共催） 高知県、高知県IoT推進ラボ研究会、四国情報通信懇談会

（後援） 中国四国農政局、全国農業協同組合連合会高知県本部
高知県農業協同組合中央会、高知県園芸農業協同組合連合会
一般社団法人高知県農業会議、公益財団法人高知県農業公社
一般社団法人高知県情報産業協会、全国商工会連合会